

伊勢原市障がい者とくらしを考える協議会

第1回伊勢原市障がい者とくらしを考える協議会

日 時 令和3年7月7日（水） 14：00～16：10

場 所 伊勢原市役所 2階 2C会議室

参加人数 名

【主な議題と内容】

1 各専門部会の取組について

※各部会長より取組経過について報告

○相談支援部会

ZOOM 機能を利用して GSV 研修を行った。平田氏 Zoom を使用した感想は？

千葉氏→画期的な取組でうまくいった。互いに意見交換ができて良かった

権利擁護部会

平田氏 GH の世話人にどのような研修をしているか？

山田氏→福祉に関心が高い人が多いが、3障がいについてはなんとなく報道、ネットで見ただけの人が多い。グループホーム研修や各種団体の研修会に参加。一人に関わることをないように配慮している。職員会議で間違いがないかを振り返りをしている。相談支援事業所に入ってもらったり単独で行うようにしている。

子ども支援部会

平田氏 ペアレントトレーニングについて、子ども家庭相談課では親御向けのトレーニング研修等を行っているか？

子ども家庭相談課→今のところやっていない。療育相談担当者会議では半数の自治体で行っている。障がい福祉課と連携しながら取り組んでいく必要性を感じている。

就労支援部会

平田氏 高野氏 近年の障がい者雇用の民間企業の取組について

高野氏→特例子会社が1社、例年数人の受入れをしている。ご縁があれば個別にコンタクトをもらえれば。コロナ禍でも一定の人数の採用をしていく。

平田氏 就職面接会について

小島氏 10月7～8日、小田原、松田の合同で行う。企業20社ずつ集め、完全予約制で行う。自治体の広報で周知を行う。

精神障がい者支援部会

家族サロン11月24日に開催予定。

ピアのつどい zoom での参加は考えていない。

対面の講演会でいい刺激になった。

平田氏 講演会の感想について

綿貫氏→非常に勉強になった。日々悩みつつ支援している中でわかりやすかった。とても気持ちほっと出来たり、納得したりいい時間を過ごすことができ、時々やってもらえるといいと思う。善本先生もフレンドリーな印象なのでまた開催したい。

当事者部会

用語が難しいとの意見あり

意図を理解することが難しい、わかりやすい言葉を使えたらいい。もう少し知的障害者の参加を図れたらいい。

つくしより

当事者1名、職員1名参加。当事者から機械は苦手との話があったが、職員の支援のもと意見交換できた。話題が盛り上がり時間延長した、楽しかったとのコメントがあった。

スポーツ大会の代替案→形を変えて何かしらやっていけたらと思う。次回も是非参加したいと思う。

2 湘南西部保健福祉圏域自立支援協議会について

3 その他

・パラリンピック聖火フェスティバルについて

企画運営会議

第1回企画運営会議

日 時 令和3年6月21日（月） 14：00～16：00

場 所 伊勢原市役所 2階 2C会議室

参加人数 12名 （Web:6名 会場:6名）

【主な議題と内容】

1 各専門部会の取組について

※各部会長より取組経過について報告

2 第1回伊勢原市障がい者とくらしを考える協議会協議事項について

日 時 令和3年7月7日（水） 午後2時～4時

（Web開催）

会場 伊勢原市役所 2C 会議室

内容 1 各専門部会の取組について

2 伊勢原市における居室確保支援について

3 パラリンピック聖火フェスティバルについて

4 第1回湘南西部保健福祉圏域自立支援協議会について

＜意見交換＞

○伊勢原市における居室確保支援について

緊急一時的に宿泊対応が必要になった場合の対応について、「単独型短期入所」としての指定が可能か、また通所事業所、相談支援事業所等での夜間対応が可能かについて意見交換を行う。

- ・どこまで対応しなければならないのか、不安がある。宿泊スペースとして、キャンピングカーのようなものがあったら、児童でも精神でもいざという時に利用できるのではないかな。
- ・グループホームで空いている部屋があったら、緊急の場合利用できるよう契約をしておけると良いのではないかな。
- ・静養室程度での対応はできると思うが、普段から事業所を利用している人であれば、受け入れることはできるかもしれない。状況が把握できていない人を受け入れるのは難しい。
- ・短期入所枠は、週末は必ず埋まってしまっている状況。夜勤男性1名、女性1名で対応しているため、緊急時の受入れ（特に新規ケース）の受入れは難しい。
- ・日中支援型のGHが本市にはない。また、夜勤、宿直等の手続きが必要であり運営が厳しいため、現実的に移行もできない。
- ・行政で、「多機能型宿泊施設」を作り、緊急一時避難所として市で確保し、夜勤等対応職員を登録輪番制にしてはどうか。
- ・緊急時の居室確保については、一番の課題であるところではあるが、各市町で取組

が進まないところ。厚木市では短期入所施設のネットワーク化を図り、輪番制で対応しているようであるが、簡単ではない様子。

- ・ 普段利用している事業所を一時的にでも利用できるのは、現実的な方法であるのかもしれない。
- ・ 何をもって「緊急」とするのか。退所日をいつにするのかなどのルールが必要。
- ・ 短期入所施設での調整で、今まで何とかなってきている状況。どうにもならない場面が生じる可能性がある。
- ・ 夜間対応等、事業所側で就業規則の変更などいろいろと課題になってしまうのではないかな。
- ・ ホテルに泊まってもらって、その場に支援者が出向く方法もあるのではないかな。
- ・ 虐待に関する運営規定等見直しの際に、緊急時の対応について文言修正してもらうなど、タイミングとしては良いかもしれない
- ・ できることから、始められたら良いと思う。

○パラリンピック聖火フェスティバルについて

聖火フェスティバルの開催について、6/23 にスポーツ課との打ち合わせがあるため、協議会において経過報告することとする。

○第1回湘南西部保健福祉圏域自立支援協議会について

- ・ 7月28日（水）午後2時～4時、第1回圏域協議会（Web）を開催。
- ・ 各市町村における新型コロナワクチンの接種状況について、情報共有を行う予定。
 - 人手が不足したときに、感染が広がっている時にでも勤務ができるか、また他施設からの応援（同法人内でも）協力をどこまでできるのかを考えなければいけない。実際、クラスターが発生した時に、本当に動けるかなど、協議会でも情報共有し、意見交換できればと考えている。本市においても、災害時等も含め、施設間での協力体制等について、協議会において意見交換ができると良い。

相談支援部会

第1回相談支援部会

日 時	令和2年9月16日（水）
場 所	伊勢原市役所 書面会議
参加人数	

【主な議題と内容】

◎第1回相談支援部会は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向けた県並びに当市の基本方針に基づき書面会議として開催した。

1 協議事項

（1）令和2年度相談支援部会の取組について

- ・コロナ禍の状況で、相談支援部会はこれまで中止としていたが、相談支援部会としては、相談員や事業所の職員の皆さんが、少しでも元気に前向きな活動ができるよう、取り組みを考えていきたい。
- ・WEB会議での実施について提案があった。事務局も慣れないツールのため、事前準備が必要。実施については、今後検討。
- ・日常の生活を取り戻しつつありますが、慣れない対応と緊張が続き、疲れも溜まってきていると考え、新型コロナウイルス感染防止対策を行いながらソーシャルディスタンスが確保できる部屋で、部会を開催予定。

（2）コロナ禍における支援への影響について

- ・電話相談が増えたり、短期入所などの受け入れが難しくサービスの調整が困難となったなど、相談支援への影響が出ていた。
- ・面談が出来ない場合は、電話やメールで対応している事業所が多かった。面談を希望するケースもあり、感染対策を講じて実施。
- ・在宅生活時間の長時間化によって、問題が顕在化し、支援の困難さが増している状況の報告があった。

（3）WEB会議開催環境について

- ・WEB会議の開催が可能であると回答いただいた事業所が、14か所あった。リモートで会議や研修を行うメリットもあるため検討していく。

（4）その他、情報交換

第2回相談支援部会

日 時	令和2年11月20日（金） 15:30～16:30
場 所	伊勢原シティプラザ 1階ふれあいホール
参加人数	28名

【主な議題と内容】

1 あいさつ

2 情報提供

（1） は一とふる農園 （日建リース工業株式会社）より

愛川町にできた、企業と障がい者をつなぎ雇用のマッチングする企業。「農業で多くの障がい者雇用を創出し、社会に貢献する」を理念に障がい者の方の農業を通じた企業への就職をサポートしている。

（2） 生活介護事業所 竹

令和2年5月、伊勢原駅南口に開設された生活介護事業所。駅に近いので、昼食は一緒にスーパーへお弁当を買いに行ったり、職員とファストフード店で食べたり出来る。利用希望があれば、紹介をお願いする。

3 相談支援の状況

令和2年度伊勢原市計画相談実績について

* 令和2年9月末現在

障害福祉サービス受給者数 858件（3月末より25件増）

障害児通所支援受給者数 523件（3月末より30件増）

相談支援専門員 26名（昨年度より6名減。理由：事業所の閉止や相談員の退職等）

セルフプラン 障害福祉サービス受給者 39件（3月末より32件増）

障害児通所支援受給者 15件（3月末より11件増）

4 情報交換

- ・ 感染防止で同行援護利用ができなかった。
- ・ 利用者が外に出られなかった。
- ・ 今まであったものがなく、混乱したケースあり。
- ・ 子どもと母が毎日いることでストレス。どう遊んだり過ごして良いかという相談あり。
- ・ 虐待の傾向が高くなり、ヒヤヒヤしながら見守った。
- ・ 相談員が、相談できる場や息抜きの場がなく辛かった。
- ・ 子ども達が、学校に行けない不安を抱えていた。
- ・ 職員がコロナに感染し、大きく混乱した。
- ・ 子どもも親も、見通しが立たないとパニックになる。
- ・ コロナ感染が落ち着きはじめた頃から、以前と同じではないことに混乱し始めた。

- ・入所者も、テレビを見て理解していた。職員は、4月頃まで対策で落ち着かなかった。対策をしながら、月の食事イベントを開催している。
- ・B型事業所の仕事の確保が厳しかった。
- ・利用者自身、ストレスをどうしてよいのか分からず、マスク警察的な発言をするケースもあった。
- ・特別支援学校では、6月から分散登校開始。担任が電話で聞き取りを行っていたが、本音を聞き取れていなかったと思われる。保護者面談が出来ない状況。
- ・圏域ナビ関係の会議は、全てウエヴ開催。
- ・9月に平塚保健福祉事務所が作成した、コロナ対策のフローがとてもわかりやすい。県HP掲載あり。

5 次回活動について

かながわエース主催の映像視聴研修を1月下旬から2月に予定したい。



権利擁護部会

第1回権利擁護部会(書面開催)

日 時 令和2年8月4日(火)～8月14日(金)

場 所 ー

参加人数 8名

[主な議題と内容]

1 部会長の選任について

今期についても、引き続き「かでる湘南 喜多氏」へ部会長をお願いいたします。

2 令和元年度障がい者虐待対応相談件数について

- ・今年度はコロナウイルスの影響により、家やグループホームで過ごす時間が増えていきます。また、慢性的なストレスを抱え込みやすく虐待のケースが増えるのではないかと懸念しています。
 - ・令和元年度でも既に確認をされていますが、短期入所等による一時保護が困難なケースが引き続き起こるのではないかと考えています。
 - ・令和元年度は例年と変わらずといった感じですが、今年度はコロナの影響もあり増えてしまうのではないかと。
- 障害福祉サービス事業所の従事者や相談支援専門員は専門的な知識を持って、障がい者を常に観察し、虐待の未然防止や早期発見、迅速な対応に努めなければなりません。引き続き関係機関と連携を図り、対応して参ります。また、部会において相談事例を共有し、課題を確認し合うなど、支援のあり方について考察を行って参ります。

3 令和2年度権利擁護部会の取組について

- ・研修や意見交換会は小規模での開催するなど、コロナウイルスの拡大防止に努めるべきではないか。
 - ・虐待防止、権利擁護の関する文献、研修の紹介など個々人でも取り組めるような活動があれば情報提供等して欲しい。
 - ・今年度はコロナの影響もあり各イベントの中止は仕方がない。部会としては、これまでの取り組みを続けていくことが大切だと思います。
- 12月の障害者週間においては、社会福祉協議会と連携を図りながら、市役所1階ホールにて啓発コーナーを設置し、啓発物品(800セット)等の配架を行います。
- また、市内関係機関には権利擁護に関する研修等の情報提供も含め、パンフレット等の送付をするなど虐待防止に関する制度周知を行います。

第2回権利擁護部会(障害者週間啓発キャンペーン)

日 時 令和2年12月3日(木)～12月9日(水)

場 所 伊勢原市役所 市民ホール

参加人数 啓発物品提供事業所 10事業所

【主な議題と内容】

障害者週間(12月3日～9日)に合わせて、毎年社会福祉協議会、権利擁護部会、当事者部会、他関係機関等と一緒に実施していた「街頭キャンペーン」については、コロナ感染予防対策のため中止とし、その代替として伊勢原市役所市民ホールにて啓発コーナーを設置し、周知活動を行いました。

啓発物品は10事業所(地域作業所ドリーム・さくらの家福祉農園・貴有意の郷・つくし・伊勢原そよ風ハウス・デイ空・レインツリー伊勢原営業所・ねくすと・コレクティブおおやまみち・クロスワーク伊勢原)よりご提供いただき、800セット配布いたしました。



第2回権利擁護部会(書面開催)

日 時 令和3年1月20日(水)～1月28日(木)

場 所 ー

参加人数 8名

[主な議題と内容]

1 令和2年度障がい者虐待対応相談件数について

※事務局からの説明

コロナの影響により、会社では在宅ワークになったり、通所事業所においては受注作業が減るなど、環境の変化について行けず不安やストレスが利用者はもちろんのこと、支援者側にも出てきている状況。また、昨年度からの虐待継続ケースにおいて、現在複数の施設(11カ所)を利用し、分離対応を行っているところですが、コロナ感染拡大予防対策により、利用施設において外部からの受入を制限する事態が発生しており、利用調整が大変困難となっている。今後は更に調整が難しくなると考え、大きな課題となっている。非常に不安定な状況下だからこそ、障がい者が安心して生活できるよう、相談員、支援員、また県等も含め情報交換を密に行いながら、迅速な対応に努めて参りたい。

→ <部会員意見>

事例として部会において学ぶ機会があると良い。

2 障害者差別解消法周知パンフレット

※事務局からの説明

湘南西部保健福祉圏域障害者差別解消支援協議会において、3市2町(平塚、秦野、伊勢原、大磯、二宮)にて実際にあった好事例を集め、それをもとに、周知用のパンフレットを作成。パンフレット(案)について意見を聞きたい。

→ <部会員意見>

一市町村だけでなく、広域的に協力しパンフレットを作成しているのは、とても良い取り組みだと感じました。良いパンフレットだと思うので、多くの人が目にしてもらえるようにできると良いと感じました。

3 令和3年度権利擁護部会の取組について

→ <部会員意見>

- ・「当事者の悩み」や「支援者の苦労」などについて、アンケートを企画すること
はどうか(他の部会との連携など)
- ・コロナ禍だからこそ、新たな取り組みをみなさんで協力し検討したい。

こども支援部会

第1回こども支援部会

日 時 令和2年6月24日（水） 10：00～11：30

場 所 伊勢原市役所 2階 2C会議室

参加人数 21名

【主な議題と内容】

1 部会長選任

事務局推薦により「おおきな樹 小木氏」にて承認。

2 新型コロナウイルス対応の請求に関すること

○放課後等デイサービス休日単価扱いについて

・学校が通常授業に戻りつつある。本市においては、いつまでを学校休業日扱いとするのか。

→ 国通知では「地域の全ての学校が通常通りの登校になってから」「終了日については市町村において定めること」とのこと。各事業所において複数の市町村より受入れているため、近隣市とも調整し決定したい。

○利用者負担額算定シートについて

・市町村によって算定シート及び請求方法は異なるのか。いつまで算定シートは提出するのか。

→ 市町村毎に作成し、対応方法についても異なる。7 月分以降の提出については検討中。

・学校が休校により対応したものについては、休日単価で請求は可能か。

→ 請求可能。

3 令和2年度こども支援部会の取り組みについて

（1）事業所見学ツアー（相談支援部会合同）について

＜候補施設＞

市外新規児童通所施設、就労系事業所、特例子会社、生活介護事業所、強度行動障がい対応事業所、養護学校 等

→ 事務局にて見学施設等について調整し案内する。

（2）GSV事例検討研修について

昨年度実施できなかった事例（事例提供者：ひこうせん）にて実施する。

（3）今後の予定

第2回 10月14日（水） 事業所見学ツアー

第3回 12月17日（木） 14:00～1年の振り返り

第4回 2月24日（水） 10:00～GSV研修

4 その他情報提供

※下記について事務局より説明

- 強度行動障害児加算対応について
- 事業所案内改訂について
- 上限管理事業所の引継ぎについて
- おおきな樹への入所選考について



第2回こども支援部会

日 時 令和2年10月12日（月）～10月16日（金）

場 所 書面会議

参加人数 13名

【主な議題と内容】

1 各事業所の情報交換（各事業所からの一部回答例）

（1）新型コロナウイルスによる影響について

①児童

- ・学校に行けない、友達に会えない、外出できないなどの自粛によるストレスは一定程度あったと思うが、勉強や決められたスケジュールから解放されて保護者と過ごす時間も増えたことのプラス面もあったのではないかなと思う。

②家庭

- ・コロナの影響でもともとあった家庭の問題点が浮き彫りになって表面化したケースがみられた。DV やうつ、家庭崩壊など。

③事業所

- ・スタッフミーティングを行う時間がなかったため、チーム連携が難しかった。

（2）支援でうまくいった事例

- ・「否定せず受け入れ褒める」ことを続けてきた中で、児童自身が褒められたことを素直に受け入れられることが増えてきた。（以前は、自己肯定感の低さから褒め

られることに対しても拒否がみられていた。)

(3) 人材育成について

- ・定期的に自己評価を行い、支援における悩みや困りごとなど、話をする場を設けています。また、日々の業務の中で声を掛け合いコミュニケーションを図っています。

(4) その他

- ・働き方改革により、有給休暇の5日間の取得を行っているが、慢性的な職員不足の中で、配置が困難と思えることも正直ある。職員の求人も継続しているが、採用に繋がらないのが現状である。業務改善で職員の業務量の軽減もテーマである。

2 次回開催

新型コロナウイルスの影響により、12/17(木) 14:00 から zoom にオンライン会議を開催予定。

第3回こども支援部会

日 時	令和2年12月17日(木) 14:00~15:20
場 所	オンライン開催 (zoom)
参加人数	18名

[主な議題と内容]

第一部 (13:55~14:35)

1 自己紹介

初めての zoom を用いたオンラインでの部会のため操作方法と会議中の決まりなどを確認しながらの自己紹介を行った。

2 各事業所の情報交換

10 事業所参加により現在の新型コロナウイルス感染拡大状況における各事業の現状についての報告を行った。

3 今年度振り返り

システムの関係上 40 分で回線が切れるために各事業所には情報交換時に今年度も振り返りながらの報告を行った。

第二部 (14:40~15:20)

4 こども支援部会内容について

次回こども支援部会は、前年度中止になった部会で取りあげる予定であった事例を用いた GSV を開催予定。

5 次年度こども支援部会予定について

全5回を予定しているが、勉強のテーマとしては災害や地域の困難事例の共有、保育所等訪問の制度についてなど。見学ツアーについては、相談支援部会との相談になるが、現在の状況では大人数で見学は難しいのではないかとと思われる。



令和2年度第3回こども支援部会アンケート結果

2020/12/17開催

1. Zoomを使用しての会議で感じたメリット・デメリット	
部会員からの回答	事業所名
・メリット	
⇒会場に行くリスクは回避できる。 ⇒昨日のような会議形式なら普段の会場で行うのと遜色なしと感じた。	めだかくらぶ
⇒感染拡大防止の観点からは良かった ⇒移動時間が無いので良かった	ファミリーキッズ3
⇒会議への参加の手軽さ。	アクア
⇒新型コロナウイルス感染予防になる	ファミリーサポート 湘南
⇒書面会議とは違い、皆さんの顔を見ながら話が出来た事が良かったと思います。また、職場にいないが参加できたので、職場を不在にすることなく複数の職員で対応させて頂けたので、こども部会の会議内容を共有できました。	こども教室・あん
⇒この状況下（コロナ感染症）でも関係機関での連携が取れた対応なので活用すべきだと思う。	ファミリーキッズ2
⇒現状の中でも集まることなく開催できる。	ファミリーキッズ2
⇒直接会わなくても会議が成立する。	ひこうせん
⇒移動時間がないため、遠方からの参加や限られた時間での参加がしやすくなったと思います。また、会議目的が明確になっていれば、短時間で有効な会議を開催できるように感じました。	障がい福祉課
⇒コロナ対策でどのような予防をしていたか各事業所から聞けて良かった。	おおきな樹
・デメリット	
⇒不慣れな方がいると、会議そのものの進行に遅れが生じる。 ⇒グループ討論のような形式には、合わないと感じる。	めだかくらぶ
⇒ネット環境によって不具合が出てしまう ⇒不慣れなため、気が散漫になる ⇒小グループでのディスカッションなど出来ない	ファミリーキッズ3
⇒スムーズな会話のやり取りが対面と比べるとしにくいので、フリートーク形式では参加人数が多いほど話をまとめることが難しくなると感じました。 ⇒環境や設定等で、利用者によって声の聞き取りやすさが異なり、気になりました。	障がい福祉課

⇒スムーズなコミュニケーションが取れない気がします(慣れていないからかも知れません) ※マイクの調子が悪く、申し訳ありませんでした。	ファミリーサポート 湘南
⇒Zoomに不慣れでログインやマイクのミュートなどご迷惑をおかけしました。 ⇒新型コロナ感染拡大が続く中、今すぐ皆さんで集まって会議を行う難しさはありますが、やはり、実際に集って話合いが出来る、より一層聞きやすいのではと感じています。	こども教室・あん
⇒以前、療育で使用した際にインターネット回線の問題だと思われましたが、接続が途切れてしまう上に聞き取りづらく、集中できないことがありました。	アクア
⇒司会の負担は大きいかもしれないが進行がスムーズな反面、意見を良いタイミングで出しにくい。また全体の空気が読みにくい。	ひこうせん
⇒Zoomへの対応を知識をつけていく、ネット環境を整えること。	ファミリーキッズ2
⇒ネット環境により途中で接続が切れてしまうことがある。	ファミリーキッズ2
⇒パソコン操作に不慣れで一人で操作するには不安があった。	おおきな樹

2. 今後、Zoomが活用できそうな場面を教えてください。	
⇒事例検討も事前の読み込みなどの準備をすれば、活用できると考える。	めだかくらぶ
⇒今は慣れないので、まだ考え付きません。	ファミリーキッズ3
⇒今後、感染拡大が続く中、家庭のネット環境によっては在宅支援を行う選択肢の一つに加えられるかと、職員で話をしています。(直接支援が継続できる日々が続きますように)	こども教室・あん
⇒研修等、話を聞く事であればZoomの方が集中でき、移動時間も無い。 ⇒研修は数回、リモートで受講しましたが良かったです。	ファミリーサポート 湘南
⇒事業所では活用できないが、保護者会、PTAなどでは活用できそう。	ひこうせん
⇒緊急時なども活用できると思う。	ファミリーキッズ2
⇒各種会議、研修等。	ファミリーキッズ2

⇒ケース会議を開くまではないというようなケースの経過確認や情報共有、またケース会議を開催するが遠方で出席できない人の参加手段として活用できると思いました。 ⇒声をどこまで拾えるのか要確認ですが、部会等でカメラを会議室全体に映して外から会議の様子を確認するような方法もできるといいと思いました。	障がい福祉課
---	--------

3. その他	
⇒協議会は地域づくりの場なので、困難事例への対応や共有、地域の情報を共有する場、地域ネットワークの構築、地域の社会資源の開発や改善、事業所などの資質向上、権利擁護について事業所の評価、市内の中立・公平性の担保などをベースに、運営していくことが必要かと思っています。まずは、地域の諸問題、困難事例を通じて、横のネットワーク構築が次年度から、その話し合いの中で抽出された地域にない社会資源などについて、それ以降で視察や見学を行っていくことが良いのではと思います。	めだかくらぶ
⇒療育を行いながらお子さん達が過ごす集団についての話を職員間でしています。今回の会議でもお話が出ていましたが、教育現場(幼保・小学校)と事業所、そして家庭とが共通理解を深め連携を取ってお子さんの成長に関わって行けるような流れが出来たら良いと思います。	こども教室・あん
⇒またZoomでも会議でも参加させていただきます。	ファミリーキッズ2
⇒事例を用いたGSVで皆さんと意見交換をしたいと思います。	おおきな樹

事務局より ⇒初めてのZoomによるオンラインでの部会でしたが、司会進行やネット環境により皆様に不便をおかけしてしまった部分があると思います。 現在、再び新型コロナウイルス感染拡大する中で一つの有効な手段ではあると思いますので何度か利用を重ねたり、使用する状況の工夫などをもっと気軽に皆さんが使用できるツールになると思いました。 改善点としては、事前の資料配布やタイムスケジュール管理などを行い、よりスムーズな運営ができるよう工夫をしていきたいと考えております。 今後も感染状況によっては、再びオンラインでの部会開催の可能性もあるかと思っておりますのでご協力お願いいたします。	
--	--

第4回こども支援部会

日 時 令和3年2月24日（水）10:00～12:00

場 所 オンライン開催（zoom）

参加人数 17名

【主な議題と内容】

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、前回と同様にZoomを利用してオンライン開催を行った。

1 事例検討

オンラインでの開催のため、当初予定されていた GSV から変更。

自閉症スペクトラムの診断があり、感情が爆発すると自傷や他害、物損行為のある中学2年生の女儿（療育手帳 B2）の支援について、資料を用いて意見交換を行った。

プロフィール	年齢14歳 中2(女) 障害名：自閉症 障害の程度：療育手帳 B2(31歳)
家族構成	両親、2歳上の自閉症の兄(特別養護学校高等部1年)の4人家族
本人の様子	視力が悪いから小さい文字のプリントは苦手。左利きで鉛筆を握って持つから小さく書くのも苦手。筆順通りに書けないけど形は整えて書けるよ。消しゴムで上手く消せない。ハサミも怖い。細かい作業もできないよ。 イラストを描いたり色めりしたり。ままだとやっここ遊び。ゲームなど一人遊びが好き。ゲームは定めて遊ぶこと。 このおわりが強いから納得するまでやらない。時間は守れない。片付けやなんて書かないで。 見通しがもてないと不安です。予定外のことは対応できません。初めてのこともやらないこともままでは。失敗したくないもん。できないって書いていたくない。 間違えたり失敗したりする自分が許せない。痛いや自分を殴っちゃう。仲間や友達は引きちぎって噛みちぎって、でも収まらない。 パニックになると頭もふっとばして何も考えられなくなっちゃう。一瞬の出来事だよ。 手足が小さくて背が高いからちょっとアンバランス。運動も苦手。運動会なんて無理。普段もどたどた歩いてしまうし、ちよっと物の扱いが雑。細いのは腐食だからかな。食べられないものが多いよ。食べ物のアレルギーもあるけど嫌いなのが多い。
	・社会性・コミュニケーション 場の雰囲気やルールは読めない。友達や先輩、恥ずかしさなどの理解は難しい。双方向の自然なやりとりや人間関係の形成は困難。協力や共感の気持ちを理解することも難しい。相手の表情、ニュアンスを理解できない。慣用表現や比喩、冗談もわからない。本調子で物言えつけないなど自然な表現ができない。 ・思考の柔軟性 このおわりが強い切替えができない。新しいことや変化への対応ができない。推察や先読みができず見通しがもてないと不安。



2 各事業所より報告

- ・令和3年度障害福祉サービス等報酬改定に伴い対応が必要となる事務について障がい福祉課より説明。
- ・勉強を中心とした放課後等デイサービス、ファミリーキッズ9が令和3年4月開所予定についてファミリーキッズより報告。
- ・職員の新型コロナウイルス感染について、経過と全職員・利用者のPCR検査実施についておおきな樹より報告。

災害時支援部会

<令和2年度の活動について>

- ・第1回は勉強会として危機管理課より令和元年度の災害についての話を聞けるよう調整。
- ・東京五輪、パラリンピックの開催もあり、総合防災訓練実施が秋頃になる予定。7～9月で当事者部会と訓練についての打合せを開催。
- ・7～9月頃で医療的ケア児者をテーマとした勉強会の開催について検討。
- ・12月頃に災害に関するツアーを開催。これまでに部会で見学していない横浜市民防災センターを候補地として検討。

※災害時支援部会においては、上記のような内容で活動を予定していたが、コロナの影響により開催を見合わせています。他部会の状況をみながら、改めて事務局と活動内容について調整、検討いたします。

第1回災害時支援部会(書面開催)

日 時 令和3年1月27日(水)～2月4日(木)

場 所 ー

参加人数 5名

[主な議題と内容]

1 令和3年度災害時支援部会の取組について

事務局より

今年度できなかったことを繰越し、次年度の状況をみながら、開催方法等新しい形での活動案も踏まえて、その都度協議検討していく。

◆勉強会

- 1 危機管理課職員による講話(本市での災害対応について等)
- 2 医療的ケア児者をテーマとして災害時対応について
(当事者からのヒアリング等)

◆総合防災訓練への参加：秋頃を予定

◆防災センター見学：防災関連施設の見学ツアーの実施
(候補地：横浜市民防災センター)

※現在、部会員より意見取りまとめ中

就労支援部会

第1回就労支援部会

日 時 令和2年7月8日（水） 14：00～15：00

場 所 伊勢原市役所 2階 20会議室

参加人数 17名

【主な議題と内容】

1 部会長選任

事務局推薦により「地域作業所ドリーム 長尾氏」にて承認。

2 第6期障がい者計画・障がい福祉計画及び第2期障がい児福祉計画策定について

※事務局より、今後の策定スケジュール等について説明。

3 令和2年度就労支援部会の取り組みについて

（1）障がい福祉事業所説明会について

＜意見交換＞

- ・平塚市は5月説明会を中止、秋頃より事業所毎に見学開始。秦野市は5月説明会を中止、随時事業所毎に見学対応。
 - ・参加人数を制限し、シンポジウム形式で事業所説明会を行ってはどうか。
 - ・説明会は中止にして、事業所案内冊子は作成して、保護者等へ配布してはどうか。
- 今年度は、障がい福祉事業所説明会は実施せず、令和2年度版事業所案内冊子を作成し、11月末までに学校等へ配布する。

（2）企業・事業所訪問について

- コロナの影響により、企業・事業所訪問は今年度中止とする。

（3）勉強会について

＜意見交換＞

- ・障がい当事者のニーズを直接きくような機会があると良い。
 - ・学校在籍中にできることは何かをききたい。
 - ・就労支援で、苦勞したけれども成功した事例（好事例）をききたい。
 - ・事業所間の情報交換ができると良い。
 - ・受注品に対するコロナの影響について知りたい。
 - ・各事業所の就労実績について知りたい。
 - ・事業所紹介をこの場で行ってはどうか。
 - ・障がい者を初めて受け入れた企業が不安を解消できるような機会（例えば企業側が福祉事業所を見学するなど）があったら良い。 など
- 上記意見を踏まえ、第2回、第3回は勉強会とする。内容については事務局にて調整。

【今後の予定】

第2回	9/7（月）	勉強会①	午後2時～4時	市役所 2C 会議室
第3回	11/27（金）	勉強会②	※時間場所未定	
第4回	1/13（水）	1年の振り返り	午後2時～4時	1年の振り返り

4 その他情報交換

・ハローワークより

「障がい者の合同面接会」が今年度は中止となった。ハローワーク毎に規模を縮小した面接会を検討している。詳細が確定したら、各機関へ周知する。

・平塚養護学校より

R3 年 1 月 12 日（火） 特例子会社と特別支援学校によるシンポジウムを開催予定。
会場は伊勢原養護学校。詳細が確定したら、各機関へ周知する。

第2回就労支援部会(書面開催)

日 時	令和2年8月31日（月）～9月11日（金）
場 所	—
参加人数	18事業所

【主な議題と内容】

1 勉強会～各機関のここが知りたい～

※次の6項目について、各事業所からの回答内容を取りまとめました。

(1) 新型コロナウイルスによる影響について（全員） 回答数：18 事業所

<一部抜粋>

- ・利用人数について、4～5月は土曜日の閉所や出勤自粛が影響し、例年より1割ほど減少しています。
- ・受注作業が減り、日中活動・工賃支払いに影響が出ないよう苦慮しています。
- ・過度の恐怖心から通所できない利用者さんがおられました。
- ・利用者さんが楽しみにしている外出行事が出来なくなりました。
- ・コロナ鬱なのか不安定になり調子を崩す方や、雇用が不安定になり転職を考える相談者がでている。
- ・会社訪問が感染予防のためできず、定着支援の電話対応が増えている。また、企業実習の受け入れが延期になるなどの影響も出ている。

- ・コロナの影響により、自粛等による利用日数の減、施設外作業の中止、受注量の減少、イベント中止による販売の機会の減少等により作業収入が大幅に減少する事業所が多くあり、新規作業を開拓して対応したところもありました。

- ・学校においては、企業側より実習方法が変更されたり、就職相談会が中止となったことによって、各企業へ電話連絡をするなど、就職活動へも大きく影響があったようです。
- ・10月になって最悪な状況からは回復しつつあるが、完全な回復は難しい状況。事業所内においてコロナ対策は実施しているものの、感染への不安が大きく、未だ通所を控えている利用者もいるとのこと。また企業就労した人も在宅勤務となったことで、就労意欲が減退してしまったり、生活リズムが乱れてしまったりしたことから、アフターフォローが必要なケースもあり、中には退職する人も数名いたとのこと。
- ・利用者自身、マスクや手洗い、消毒、検温等様々な感染予防対策に追われ、更には楽しみにしていたイベントも中止になるなど、相当なストレスがあると思われる。
- ・今だからこそ丁寧な寄り添い、相談支援対応が求められる状況にあるのではないかと。

(2) 就労支援ケースで成功した事例、苦労した事例について（全員） 回答数：13 事業所

<一部抜粋>

【成功した事例】

- ・内職で受注している取引先に就労できた。
- ・実習先見学により就労への意欲が湧いた。
- ・本人が就労を強く望んでいた実態をうけ、自宅から近く通勤に負担のない企業で、2年時に2回、3年時に3回の実習を積み重ねた。学校では、実習場面を想定したロールプレイを繰り返し行い、実習中は、企業側に本人の特性や支援についての理解を得ることができ、配慮ある対応をしていただくことができた。

【苦労した事例】

- ・企業へ実習をおこなったが、採用に結びつかなかった。利用者が自信を無くしてしまった。
- ・本人が新しい環境に馴染むのに苦労しているケースが多い。特に、今年度はコロナ対応で入社と同時に在宅勤務になった方もおり、現段階でもまだ適応に苦労している方がいる。在宅勤務で自分に合ったことを行うという課題が出て、何をしたらよいか迷っている方もいた。
- ・実習の時との違いに戸惑うことや、社内の人間関係、わからないときに誰に聞いたらよいか等で苦労しているケースがある。

- ・成功した事例においては、グループホーム管理人も含め支援者と会社とで顔合わせを実施したり、受け入れ部署の職員に対して勉強会を実施し現場の理解を深めるなど、丁寧な定着支援を行うことで企業との信頼関係を築き、障害者雇用に対する安心感、更には雇用を広げることができたとのこと。
- ・また、本人が希望する職種ではなかったが、支援者側の提案によりチャレンジしてみた結果、「やってみてよかった」と本人から聞け、現在も継続して勤務することができているな

ど、利用者の適正にあった就労先とのマッチングは本人の可能性を広げる上でもとても重要となっている。

- ・ 苦労した事例においては、本人の希望ではなく親御さんの希望する企業への就労したケースや、就労先で仕事を与えてもらえず不安になり体調を崩してしまった、実習をしたが採用に結びつかず自信をなくしてしまったなど、就労に対するモチベーションを維持することが大きなポイントになると思われる。

(3) 令和元年度の就労実績（伊勢原市在住）について（全員） 回答数：10 事業所

<一部抜粋>

- ・ 伊勢原養護学校

一般企業3名（分教室2名、本校1名）就労先：食品卸売会社、スーパー、老人ホーム

- ・ 障がい者就業・生活支援センター サンシティ

全体で73件のうち11件が伊勢原市在住者

※男女比・・・男性8名女性3名 障害別・・・身体0名、知的9名（重度4名）、精神2名

その他、カウント外で短時間就労者が2名（男性1名、女性1名、知的1名、精神1名）

- ・ 近年、就労移行だけでなく、就労継続B型事業所も含め就労実績が増加傾向にあります。就労して終わりではなく、長く勤務できるよう、就労後の定着支援（余暇支援も含め）の体制整備が重要であると考えます。

(4) 学校在籍中にやっておいて欲しいこと（学校以外） 回答数：13 事業所

<一部抜粋>

- ・ 基本的な生活習慣、マナー（あいさつ、敬語、報連相）
- ・ 「働く」ということについての理解
- ・ 保護者の方の「障がい者が働く」ということの理解
- ・ 体力をつけてもらいたい。
- ・ 毎日やすまずに通所できる、生活リズムと体力を養って頂ければと思います。

- ・ 基本的な生活習慣、社会生活上のルールやマナーを身に付けておくこと、就労への意欲を身に付けておくことも重要であるとのこと。

(5) 工賃向上に向けた取り組みで工夫していること（事業所のみ） 回答数：13 事業所

<一部抜粋>

- ・利用者さんに合った作業を行うこと。
- ・効率的に作業が出来るよう職員間で話し合うこと。
- ・今まで取り組んでいなかった自主製品の制作・販売を始めました。
- ・取引先との単価見直しをおこなった。
- ・施設外就労の日数を増やしてもらう
- ・農園で穫れた物を無駄にしないこと。

- ・利用者の作業量等を把握した上での、工賃につながる作業の確保及び利用者の安定した出勤等、各事業所において工夫をしている様子。それぞれのノウハウを共有することで、安定した売上の確保及び事業所間の連携強化が期待される。

(6) その他情報交換したいこと 回答数：6 事業所

<一部抜粋>

- ・各機関どのように就労先を見つけているのか。
- ・来年度に向けての利用者の確保をどのように行っていくか。
- ・伊勢原市（もしくは、その近隣市）で、障害者雇用や特別支援学校からの実習受け入れを考えている企業の情報があったら教えて欲しい。

- ・就労支援をテーマに、各事業所間での情報交換をすることは支援体制の強化を図る上でも非常に重要である。コロナ禍においての効果的な情報交換の場の設定できるよう、今後の部会開催方法も含め事務局において検討する。

○今後の予定

- ・第3回 11/27（金）勉強会② → 中止
- ・「令和2年度版事業所案内冊子」を作成し、12月末までに学校等へ配布。
- ・第4回 1/13（水）1年の振り返り 午後2時～4時

第4回就労支援部会

日 時 令和3年1月13日（水） 14:00～16:00

場 所 伊勢原市役所 2階 2C会議室

参加人数 14名

【主な議題と内容】

※今回から伊勢原高校の近藤先生、森先生が参加。今年度開校した県下 14 校目のインクルーシブ校。現在、16 人の生徒が在籍。

1 令和2年度就労支援部会の振り返り、令和3年度の取り組みについて

- ・保護者に対して障がい者虐待を啓発する場を持ちたい。
- ・障がい福祉事業所のことを知らない保護者がいるため、知る機会を作れたらいい。
- ・コロナ禍での情報共有や事例検討、事業所の声が聞きたい。
- ・地域の情報を聞きたい。
- ・書面開催やリモートではなく、顔を合わせて情報交換がしたい。
- ・書面会議では全事業所の回答を得られ、貴重な意見を聞くことができた。

○コロナ禍での近況について

- ・事業所を閉めることなく、利用者の居場所づくりに努めた。
- ・1 学期の実習等は中止。就職したが自宅待機の卒業生がいる。2 回目の緊急事態宣言下では通常通り行っているが、実習や保護者の企業見学を延期したケースがある。
- ・就労定着支援では企業から訪問を控えてほしいと要望があった。2 回目の緊急事態宣言下では県外の訪問は控え、来所や家庭訪問は通常通り行い、WEB 面談も実施している。
- ・求職者は増えているが、求人は少ない。
- ・販売機会が減少し、工賃確保が大変。
- ・利用者は通所しているが、外出できないストレスや不安を抱えている。
- ・就職した利用者で「出勤していいのか？」という問い合わせがあり、対応に追われた。
- ・施設外就労（老人ホーム等）では感染症対策に気を付けている。
- ・余暇をどう楽しむかを職員同士で話し合っている。
- ・ガーデニング作業は減ることはなかったが、夏はマスクをしての作業が大変だった。
- ・現在は午前と午後に利用者を分けて対応している。
- ・就職したが出勤できず、精神的に崩れて退職した生徒がいた。福祉事業所に通所している人は安定して生活できている。
- ・肢体、知的の部門での交流や縦割り活動を控え、行事も中止にしている。学校生活を楽しめているのか疑問を感じる。
- ・11 月 5～6 日に半日ずつ面接会を実施。14 社が参加し、78 件の面談、7 人が採用になった。企業側の採用意欲はある。10 月に面談会を行う予定。

- ・通所を自粛した利用者がいた。公共交通機関を怖がる利用者がいたため、送迎車を多く出して対応した。
- ・在宅支援では電話連絡や自宅訪問し、健康状態等を確認した。
- ・自主製品のポップコーンの売れ行きは好調で事業所まで買いに来る人もいる。
- ・就労移行支援では2人就職。現在利用者はいない。
- ・就労定着支援期間が終了した利用者も支援している。

2 第6期 伊勢原市障がい福祉計画・障がい福祉計画及び第2期障害児福祉計画について ※事務局より資料説明

3 その他

○新型コロナウイルスへの対応に伴う就労継続支援事業の取り扱い等について

※事務局より資料説明

○就労アセスメントを受ける負担が大きい。※後日、ワークショップ伊勢原より就労アセスメントの受け入れ可能との連絡あり。

○障がい福祉事業所説明会について

- ・平塚市では障がい福祉事業所の動画（You Tube）を市のチャンネルで配信予定。自宅で動画を視聴できない人には、庁内パソコンで視聴できるよう環境を整える。伊勢原市でも産業能率大学の協力を得て PR 動画作成を検討。※ワークショップ伊勢原より就労継続支援 A 型の仕事として受注可能と連絡あり。
- ・ZOOM での開催も検討する（「民間企業サーバーを利用するセキュリティの懸念がある」との意見あり）。

○次回開催について

- ・令和3年5月28日（金）予定。できるだけ対面形式で実施する。

精神障がい者支援部会

第1回精神障がい者支援部会

日 時 令和2年6月30日（火） 10：00～11：30

場 所 伊勢原市役所 2階 2C会議室

参加人数 12名

【主な議題と内容】

1 部会長選任

事務局推薦により「みらい伊勢原 山田氏」にて承認

2 令和2年度精神障がい者支援部会の取り組みについて

コロナの状況を踏まえ「家族サロン」「ピアのつどい」の開催時期について意見交換を行う。

○家族サロン

- ・継続してきたことが途切れてしまうことが心配。
- ・開催できる時期となった場合にはサロンを開催する旨のメッセージを、くらし安心メールにて配信できると良い。
- ・新しい形での開催スタイルを検討してはどうか。
- ・参加者は“相談したい”というよりは“集まって話をしたい、聞いてもらいたい”のではないか。
 - ・語り合いの場として、年内に1回家族サロンを開催する方向で検討する。
 - ・新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策のため、飲食なし。開催時間は1時間とする。事前申込み制で氏名、住所、電話番号を確認し、令和2年度は市内在住・在勤限定とする。症状がある場合は参加不可。
 - ・くらし安心メールにて、今後のサロンの開催についてメッセージを配信する。
 - ・ちらしは事業所連絡会で作成。

○ピアのつどい

- ・他市からの参加者もいる。参加者名簿、連絡先等記載してもらう必要がある。
- ・Zoomなど使用できる人はいると思うが、話したい人が話してしまうなど、今までの雰囲気が変わってしまうのではないか。
- ・ピアのつどいは、集まって開催する形が良い。
- ・当事者主体を大事にしてきたので、今後のことも当事者自身に考えてもらうのが良い。
 - ・12月より開催する方向で検討し、テーマは1つのみとし、「今後のピアのつどいの進め方」にする。
 - ・当日の名簿は事務局で作成。消毒薬、マスクは市で、体温計は事業所で用意する。
 - ・家族サロン同様に、くらし安心メールにて、今後のピアのつどいの開催についてメッセージを配信する。

精神障がい者支援部会 臨時書面会議

日 時 令和2年8月24日（月）～

場 所 ー

参加人数 部会員6名にメール送付

【主な議題と内容】

未だ新型コロナウイルスの感染拡大が見られる中で、第1回部会において話し合われた家族サロンとピアのつどいの「人数制限等の予防対策をとっての開催」について、再度各部会員の意見を確認するため、書面会議を開催した。

1 家族サロンの開催について各部会員の意見

〔開催有〕

- ・申込制にし、最大限の防止策で開催できたらと思います。時期についてはインフルエンザの流行する時期は避けた方がよいと思います。
- ・顔を見ながら話しが出来る場が無くなっている現状の中で連携をしているというメッセージを込めて家族の方が少しでも何か安心を見つけてもらえる為にも開催出来ればと思っています。
- ・第1回目で話し合われた内容の通り、日程を絞っての開催でよいと思います。

〔開催無〕

- ・コロナウイルスが猛威を振っている状況かでは、家族サロンの開催は難しいと思います。年度内に1回開催出来るか、検討は継続していければと思います。
- ・感染が拡大してきているので、今回は中止にしたらよいと思います。
- ・家族の方の為にも開催を望みますが、現状を考えると難しいのではないかと思います。

2 ピアのつどいの開催について各部会員の意見

〔開催有〕

- ・開催に当たっては当日いきなりではなく、家族サロン同様事前申し込み、市内在住もしくは市内勤務、市内事業所通所の方に限定してほしい。
- ・第1回目で話し合われた内容の通り、日程を絞っての開催でよいと思います。

〔開催無〕

- ・突然の参加があること、コロナ感染拡大に向けた周知が障がい特性を考えると困難なこともあるので開催はしなくてもよいと思います。
- ・コロナウイルスが猛威を振っている状況かでは、ピアのつどいの開催は難しいと思います。年度内に1回開催出来るか、検討は継続していければと思います。
- ・中止にしたらよいと思います。
- ・開催を望みますが、現状を考えると難しいのではないかと思います。

3 その他意見

- ・もし開催するのであれば、参加の数日前から検温をする等対策、連絡先の把握は必要と思います。また、当日も少人数、短時間で行う。検温、消毒、ソーシャルディスタンス、マスク等協力をお願いする等対策は必要だと思います。

今年度開催できない場合は、終了したのではなく、時期は未定だがコロナが収束したらまた開催する旨をメール配信しておけば、家族、当事者共に安心なのではないでしょうか。

4 各部会員の意見が割れたため、結果を基に部会長と検討・結論

〔家族サロン〕

- ・家族の方が相談できる場を設けることを目的に、申込制、検温、マスクの着用、消毒など感染症対策を取った上で、11月13日(金)に予定していた開催ができよう、対応する。

〔ピアのつどい〕

- ・開催無しの意見が多数。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和2年度のピアのつどいは中止する。令和3年度については、第2回精神障がい者支援部会にて検討していく。

5 9月14日(月)：上記書面会議の報告について各部会員へ連絡

- ・とりまとめに対する意見・要望を確認。

6 9月24日(木)：各部会員へ上記とりまとめについて報告

- ・ピアの集いの開催は今年度は中止にしても、次年度に向け参加の枠をどうしていくかの検討は必要と思われます。
- ・御家族の方の御参加が有意義になっていただけるよう願っています。
- ・他意見なし。

7 その他

- ・当事者からの意見が9月17日(木)にメールが入り、部会員と共有した。

「当事者部会やピアのつどいはどうなるのでしょうか？」

意見を言う場や話し合える場がないというのは、私たち当事者は24時間365日当事者なのに、存在を否定されているようなもので、とても悲しく、とても困っています。

人が集まるとコロナが心配だということなら、(部会については)書面やオンラインなど代替方法はいくらでもあるのではないのでしょうか...」

第1回家族サロン

日 時	令和2年11月13日（金） 14：00～15：00
場 所	伊勢原シティプラザ 3階 研修室
参加人数	20名（内訳：一般参加者 9名、準備運営支援者〔事業所、保健所、市〕9名 その他〔相談員、病院作業療法士〕2名）

【主な議題と内容】

1. スタッフや同じ悩みを抱える家族との話し合い
 - ・会場入り口で、マスク着用・氏名の確認、非接触型体温計温で計測、手指消毒をお願いした。その他、感染対策のため窓を数か所開け、換気を実施。
 - ・1 組事前予約なしで参加された方がおり、確認したところ、メールで申し込みをしていたが、送信先のメールアドレスを打ち間違えており市に届いていなかった。
1 名当事者であったため、ピアのつどいを紹介し、本日は退席。夫のみ参加とした。
 - ・精神障がい者との関わりがある相談員と病院勤務の作業療法士の方が、家族のお話を伺いながら理解を深め、学びたいと希望され、申込みあり。部会長、精神障がい者を支える事業所連絡会長に相談をし、ご参加いただいた。



感染防止対策のため、1 時間（前年度より短縮）で開催。
2 グループに分かれたことで、
程良い人数で各々が話しをすることができました。

各グループ話し足りない様子や話が弾んできたタイミングで終了となりました。次年度の開催時間は部会で検討していきます。



第2回精神障がい者支援部会

日 時 令和2年12月23日(木) 10:00~11:30

場 所 伊勢原市役所 2階 2C会議室

参加人数 6名

【主な議題と内容】

1 令和2年度振り返り

○家族サロンについて

- ・家族が感じていることはそれぞれ違うが、体験者だから他の家族にも染み込む言葉があったり、説得力がある。
- ・ZOOM開催の検討の提案。臨場感がなく、安全性の確認も必要であり、課題がある。
- ・解決方法はケース毎に異なるが、今後も話し合える場は必要である。令和2年度の開催は1回のみであったが、有意義であった。
- ・家族は笑顔が出てきており、開催してほしかったとの意見があった。
- ・ソーシャルディスタンスで間隔を開けたことから、声が聞き取りにくい場面があった。レイアウトの再検討が必要である。

○ピアのつどい

- ・当事者から開催の有無の問い合わせがある。
- ・「コロナ禍での過ごし方」「今後の開催」をテーマに、令和3年2~3月頃に1回開催する。
- ・今まで申込み不要であったが、事前申込制（氏名・住所・電話番号聞き取り）にし、人数確認をした上で開催する。
- ・令和3年の開催は、当事者に意見をもらって検討する。

2 令和3年度精神障がい者支援部会の取り組み

○家族サロンについて

- ・例年通り、年3回開催予定とする。
- ・講演会は人数制限を設け、感染予防を行う。
- ・日程や会場確保など詳細は令和3年度の部会にて決定する。

○ピアのつどいについて

- ・例年通り、年6回開催予定とする。
- ・伊勢原シティプラザ会場は、偶数月第3日曜日に予約調整済み。

3 その他情報交換

- ・第6期障がい者計画・障がい福祉計画に関する「精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築」（別紙資料参照）について共有。市町村ごとに、協議の場を持つことが求められている。具体的には、精神障がい者支援部会で話し合う場を設けたり、相談支援部会や精神科病院の医療ソーシャルワーカーとの連携などを考えている。今後の活動については、令和3年度精神障がい者支援部会第3回目を設け、検討をする。

令和2年度 精神障がい者支援部会 第2回欠席者意見とりまとめ

欠席者部会からの意見	第2回部会の意見	事務局まとめ
議事1 令和2年度の振り返り 家族サロンについて		
・他グループの声が混ざり、聞き取りにくいとの声がありました。結果大きな声を出すことになってしまいました。 ・コロナ禍においても分かち合いの場が必要であることを実感しました。家族支援は後本人の生活を支える大切な取り組みであり、そのニーズは行政施策、計画にも反映させていくものであると思います。 ・思い切って行ってよかったと思います。人との会話が思う様に出来ない中、悩んでおられる御家族が少しでも共有出来る語れる場を設定出来た事は有意義だったと思います。こんな時だからこそ続けていけたらと思っています。	・家族が感じていることはそれぞれ違うが、体験者だから他の家族にも染み込む言葉があったり、説得力がある。 ・ZOOM開催の検討の提案あり。しかし、臨場感がなく、安全性の確認も必要である。 ・解決方法はケース毎に異なるが、今後も話し合える場は必要である。令和2年度の開催は1回のみであったが、有意義であった。 ・家族は笑顔が出てきており、開催してほしかったとの意見があった。 ・ソーシャルディスタンスで間隔を開けたことから、声が聞き取りにくい場面があった。レイアウトの再検討が必要である。	令和2年は新型コロナウイルスの蔓延により、これまでにない年となりました。 例年と同じく年3回の開催を予定をしていましたが、感染拡大防止のため、部会員と書面会議や部会長と協議の上、家族の方が相談できる場を設けることを目的に、令和2年11月13日に1回のみ開催をしました。 事前申込制、検温、マスクの着用、消毒など感染症対策を実施しました。 例年同様の申込者数であり、開催してほしかったとの意見もあったことから、対策を検討した上で開催ができたかと思います。 令和3年度は、会場レイアウトの再検討をします。
議事2 令和2年度の振り返り ビアのつどいについて		
・本協議会で検討していく事項は、当事者の意見が入らないのはあり得ない状況であるため、今後も当事者の語りの場は地域には必須であると考えます。 ・不特定の方の集いなので、オンラインも出来る方とスキルの無い方もおられます。どなたでも参加する場にはならない。今年は開催無しで残念でしたが、開催は収束することが第一条件だと思っています。	・当事者から開催の有無の問い合わせがある。 ・「コロナ禍での過ごし方」「今後の開催」をテーマに、令和3年2～3月頃に1回開催する。 ・今まで申込み不要であったが、事前申込制(氏名・住所・電話番号聞き取り)にし、人数確認をした上で開催する。 ・令和3年の開催は、当事者に意見をもらって検討する。	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面会議で検討の結果、令和2年度のビアのつどいは中止しました。 しかし、当事者の身近な居場所、語り合いの場が無くなることで、困っている、悲しいと感じているなどの当事者からの意見があること、開催を求める声があること、令和3年度の開催について当事者から意見をもらうため、感染対策を図った上で、令和3年2月に1回開催を調整中です。
議事3 令和3年度の取り組み 家族サロンについて		
・今年度の実施を受け御家族からのニーズはあると思われるため、感染拡大防止の対策をとりつつ開催は必要と考えます。 ・出来れば令和2年度と同じ様に語れる場を作っていけると良いと思う。	・例年通り、年3回開催予定とする。 ・講演会は人数制限を設け、感染予防を行う。 ・日程や会場確保など詳細は令和3年度の部会にて決定する。	感染予防対策(人数制限、事前申込制、検温・マスクの着用・消毒の周知)を図り、例年同様の開催数を予定します。 新型コロナウイルス感染拡大の動向により、開催数など変更する可能性があります。
議事4 令和3年度の取り組み ビアのつどいについて		
・今年度実施するつどいで参加者の意見を聞いたうえで判断することにはあると思いますが、当事者の意見を聞く場として次年度も感染拡大防止の対策をとりつつ実施をする必要はあると考えます。 ・現状では開催は難しいと思います。	・例年通り、年6回開催予定とする。 ・伊勢原シティプラザ会場は、偶数月第3日曜日に予約調整済み。	例年通りの開催予定とし、会場は予約済みです。 開催方法や頻度、開催時間などについて、新型コロナウイルスの動向を見ながら必要時部会員と相談して決めます。
議事5 その他		
・家族サロン、ビアのつどい共に、第2回の会議での話し合いの結果に賛成です。 ・事業所運営もギリギリながらスタッフは動いています。通所の方には、現状は置場所的な存在を提供している部分もあります。お互いに協力し合いながら元気で過ごせるように注意しながらの生活をしています。リスクは出来る限り少なくしてと考えています。	・第6期障がい者計画・障がい福祉計画に関する「精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムの構築」(別紙資料参照)について共有。市町村ごとに、協議の場を持つことが求められている。具体的には、精神障がい者支援部会で話し合う場を設けたり、相談支援部会や精神科病院の医療ソーシャルワーカーとの連携などを考えている。 今後の活動については、令和3年度精神障がい者支援部会第3回目を設け、検討をする。	

第1回精神障がい者ピアのつどい

日 時 令和3年2月21日（日） 13：30～15：30

場 所 伊勢原シティプラザ 3階研修室

参加人数 11 名 （内当事者5名）

【主な議題と内容】

1 語り合い

○今回のテーマ

①コロナ禍での過ごし方

- ・外出が減った。 ・30分のウォーキング、ゲーム、映画、手芸をして過ごす。
- ・疲れたら寝る。活動が少ないため、行けるところへ行く。
- ・父が在宅勤務となり、3食作る母のストレスが溜まった。
- ・買い物外出時に近所の方に会い、昼間家にいることに「えっ」という顔をされた。
- ・外出が減りお金が貯まる。 ・外出が減ったが出費が変わらない。 など

②今後のピアのつどいの開催について

- ・令和3年度は、例年同様偶数月に13時30分～15時30分、2つのテーマについて話し合う形式で開催。
- ・当日申込みのない方の参加も受け付けるが、事前申し込み制とし、氏名・住所・電話番号を確認する。
- ・ホームページ等の他、くらし安心メールで開催の周知、中止の周知を行う。くらし安心メールの登録方法について、開催ちらしに掲載する。ピア参加者の周囲で登録方法が分からない方がいた際は、周知や登録の手助けをご協力いただく。
- ・当日のマイクを全員が使う流れにすることの提案があったが、人によるため、冒頭にマイクを用意していることを伝え、必要な方に渡すこととする。

○次回のテーマについて

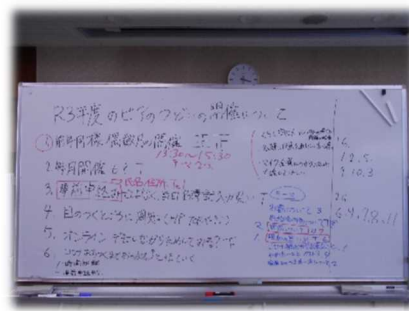
①昭和の思い出

②就労について

※30分短縮開催をしましたが、久しぶりの開催もあり、話が盛り上がりました。

15時30分まで話し合い、例年同様の開催となりました。

まだ新型コロナウイルス感染拡大防止対策が必要な時期ではありますが、対策を取りながら、令和3年度もピアのつどいを開催していきたいと思います。



当事者部会

第1回当事者部会（書面会議）

日 時 令和2年10月26日（月）

場 所 伊勢原市役所

参加人数 15名

本来ならば委員の皆様にお集まりいただき部会を開催するところではありますが、今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向けた県並びに当市の基本方針に基づき書面会議とさせていただきます。

【主な議題と内容】

1 令和2年度当事者部会の取り組みについて

（部会員からの意見）

- ・活動ができないのはコロナのせいで仕方がない。書面会議で良いと思います。
- ・多数人が集まって意見交換する会合も難しい現状ではリモート会議が主流になってきていますが、様々な障がいのある部会員には難しい方法かもしれない。当面、書面による会合が主でよいと思います。
- ・集まりにくいことは確かだが、密にならないように工夫して、頻度が少なくてもよいので集まれないか？
- ・直接お会いできなくても何か部会としてできることがあればしたい。
- ・コロナウイルス感染を受け、新しい生活様式が求められています。しかし、障害の特性によっていろいろな問題点があるようです。これらの課題について、お互いに理解を深めるため、課題を出し合い、分析し、周知をはかる。
- ・コロナで当事者部会がひらけない状態なので、書面でたよりを作って、色々情報交換していったらどうでしょうか（冊子をつくるとか）。
- ・行事活動としては、少数人での障害者週間での活動（物品の受け渡しはなし）。予算があれば部会ニュースの発行。調査目的（ねらい）を定めての市 midpoint 検などどうか。

（事務局より）

- ・部会の対面開催については、新型コロナウイルスの感染者数がもう少し落ち着いた段階で検討（来年3月ごろに開催できるとよい）。開催がきまり次第、改めて連絡とする。
- ・WEBでの開催は、インターネット環境など個々で異なるため、当面は書面に対応。

2 部会員の皆さんの近況について

（部会員からの意見）

- ・私はほとんど自宅で過ごしています。読書やネット。少しの家事などです。週に1～2回は妻と買い物に出ています。毎朝30分ほど妻と散歩をしています。もともと家に居ることが嫌いではないので、あまりストレスは感じていません。
- ・人に会う機会がかなり減り、ほとんど家にいて憂鬱になることもありました。

- ・就Bと通所リハビリに通っている。コロナ前と頻度は変わっていません。
- ・元気に作業所へ通所し、変わりなく過ごしております。当事者部会のこと、気になっていました。早く、再開できるといいですね。 など

3 コロナ禍で困っていること

(部会員からの意見)

- ・ソーシャルディスタンスのため、バス乗車時や買い物時のレジで並ぶ時に場所が判りにくい。(視覚障がい)
- ・歩行時の誘導を受けにくい。(視覚障がい)
- ・視覚障がいがある自分たちが、コロナに感染してしまうとどうなるのだろう。生活していけるのかと不安である。(視覚障がい)
- ・店員さんもマスクをかけていて、マスク越しの私の声も聞きにくかったようで、勘違いが生じてしまった。(聴覚障がい)
- ・両親共、もし新型コロナにかかったらリスクが高いとされている疾患があるため、怖がって買い物や外出することを控えるようになってしまったので、私の負担が増え、精神的なストレスが溜まるのに、居場所・行き場がないこと。(精神障がい)
- ・感染当初は、戸惑いましたが、今はこの状態になれて普通に感じています。いろいろなイベントがなくなり寂しいですが。(精神障がい)
- ・バス通勤のため、色々と気をつけています。(知的障がい)

(事務局より)

- ・密を避けるためのソーシャルディスタンスやマスクの着用など新しい生活様式が求められる中、障がい特性によって戸惑いや困ったことがあることが分かった。
- ・障がい当事者や家族が感染した時の対応はどうなるのかと、切実な声も届いている。
- ・発熱などの症状があり受診や検査を受けに行きたいが家族の協力が得られない、自宅待機になった時に買い物などはどうしたらよいのだろうなど、様々な不安がある。状況によって対応が異なるが、市役所や相談員等にご相談いただき、保健所の助言を受けながら、対応を考えていけるとよい。

4 その他、情報交換

- ・まだまだ厳しい状況ではありますが、一步一步前進して参りましょう。
- ・早くお会いしたいです。
- ・ガイドヘルパーとの距離は近い。距離をとるということは、どうしたらよいか？細かく考えると大変なので、感染予防を講じながら対応しています。
- ・こんな時期ですが、お身体は大丈夫ですか？体調を崩したりしていませんか？また、皆さんはどのような生活を送られていますか？